日刊県民福井　平成２７年　６月２８日（日）

(株)角文

書き心地流れるよう

万年筆愛好家に応える

文具店など　越前和紙の手帳開発

「福乃ここ千手帳」を手にする角谷恒彦社長＝福井市内で

福井市文京四丁目の文具店「角文」が、最高の書き心地を求めて和紙メーカー「山田兄弟製紙」（越前市不老町）などと共同開発した越前和紙製ノート「福乃ここ千手帳」が完成した。

角文の角谷恒彦社長が開発に乗り出したのが二〇〇八年。当時、筆記に最適と評判だった「バイキングブールス紙」が生産を終了し、万年筆愛好家の間で惜しまれていた。「あの紙を、越前和紙で復刻できないか」。社長の奮闘が始まった。

紙すきの地元、越前市今立地区を回って協力企業を探したところ、山田兄弟製紙が名乗りを上げた。県工業技術センターも共同開発に加わり、商品化に向けて試行錯誤を重ねてきた。

出来上がった紙は、越前ブールス和紙「福乃ここ千」と名付けた。流れるような書き心地が特色で、万年筆愛好家からは「普通の紙と、和紙の雰囲気が絶妙のバランス」と高好評を得ているという。

手帳の一紙には、京都市の老舗、龍村美術織物の布地を採用した。手帳は縦一四・二センチ、横九・三センチ。全六十四枚で、両面に書き込める。価格は六千八百円。

㈱角文＝０７７６（２２）７７３１。また、開発紙は少量からの受注生産も可能。㈱山田兄弟製紙＝０７７８（４３）００４３

（藤共生）